

平成 21 年度研究チーム活動中間報告（第 2 回目）

日本語教育用学習支援システムを利用した読解教材の開発

研究幹事 北村達也

本研究は、本学知能情報学部の北村、同国際言語文学センターの森川結花、上智大学国際教養学部永須実香により実施されている。e-Learning システムを利用した教材作成、ブログによる双方向交流、ポッドキャストによる音声配信等を活用して、インターネット上に重層的な読解教育・学習環境を構築することを目的としている。

前年度に開発した e-Learning システム e-chuta に関しては、使用方法を解説する動画を作成したり、中国語に対応したりするなど、利用拡大のための方策をとった。このシステムについては、本学情報教育研究センターの紀要に論文を投稿した。

tutor.bunko 上級編「日本文学・珠玉の小品集」(<http://basil.is.konan-u.ac.jp/tutor/bunko/advanced/index.html>) では、前年度に引き続き青空文庫から作品を選び、ツールチップ意味表示機能付き本文 HTML ファイルを作成してインターネット上で公開した。その収録作品は現在までに十作品に及んだ。そのうち、四作品はマサチューセッツ工科大学の「読解アシスタント」プロジェクト(<http://dokkai.mit.edu/index.cgi>)とのコラボレーション作品である。今年度中にあと二作品の公開が予定されている。

また、これらの作品を学習者が実際に読み、言語・文化間の違いを越境して内容を深く捉えていく様子を観察するため、ブログを利用した意見交流の場を設けた(<http://gongitsune6girls.blogspot.com/>, <http://jp-literture.blogspot.com/>)。ここでは「ごんぎつね」と「南京の基督」を題材にし、十名のモニター学習者からの意見を収集・分析して、今後の教材開発や教授法の改良につなげていきたいと思う。

以上に加え、2010 年 5 月 15 日の日本語教育学会春季大会でのデモンストレーション発表、8 月 29 日の日本語教育教え方合宿 2010 での口頭発表の場で得られたフィードバックを基に「新聞記事・読解演習コーナー NP クラブ」(<http://blog.goo.ne.jp/np-club/>)を開設、また、tutor.bunko サイト内で既存の教

科書「日本語中級 J501」のワークシートを始めとする授業用副教材を公開して日本語教育への貢献を目指している。

tutor.bunko 中級編 (<http://basil.is.konan-u.ac.jp/tutor/bunko/intermediate/index.html>) では、まず 2010 年 7 月に「tutor.bunko 漢字の部屋」を開設した。これは、ひらがな、カタカナの学習を終了したばかりの初級者でも、独力で読み進んで行けるように、文型、語彙の提出、内容に配慮した例文集である。漢字ごとに筆順、音読み、訓読み、英語による意味説明が基本情報としてあり、文字ごとに e-chuta 装備の例文が付随している。例文は、文法的に初級者に分かりやすく、かつ、興味深い内容になるよう工夫した。関連した画像、動画が見られるよう、リンクもある。

また、tutor.bunko 上級編の読み物にチャレンジしたい中・上級者のための「構文ナビゲーション」二作品分（「ごんぎつね」「一房の葡萄」）を公開した。これは、日本語の文構造を色分けして分かりやすく表示し、読解の補助となる解説をつけたものである。最後に、ネイティブスピーカーが日本人を対象に日々発信している生のブログ記事を e-chuta などの補助機能を付随させた上で、日本語学習者向けに再発信する「友達のブログ」を開設した。